

【委員】 小林 勉 永井有妃子 下山千恵子 北原由香恵 山中 庄一 西東 陽子
橋本 志保 白石 孝子 稲葉亜希恵(校長)

* 敬称略

【統括地域学校協働活動推進委員】海老原 忠

【事務局】矢島 司(教務主任) ※記録

1. 任命書の交付・出席簿への押印

※自己紹介

2. 組織づくり

・会長：山中 庄一 ・副会長：小林 勉

3. 本年度の学校教育目標と方針についての説明(学校長より)

学校経営の方針について、グランドデザインをもとに説明する。

本校は、今年度創立80年を迎える。ノーチャイムで生活できていることは、長年の成果であること。そして校歌にも歌われているように主体性を大切にした教育を引き継ぎたい。最終的には様々な特長や個性のある生徒が、社会に出たときに自律して生活できる、生涯学習の基盤づくりの役目を、中学校3年間が果たしていることを念頭に学校経営を進めたい。

学校目標は変わらないが、目指す学校の姿は「活気に満ち ともに高め合う 温かい学校」(活気に満ちとは、一人一人が前に学習や運動に取り組めること、ともに高め合うとは仲間と学び合い、成長すること。温かい学校とは、安心して過ごせる学校)。生徒にとって、一日の生活の中で最も長い時間は授業であり、学校の生命線である。「分かった」「できた」が実感できること、友達と学んでよかったと思える瞬間があること、互いに認め合い、安心して過ごせる場所があること、そして子どもたちが毎日学校から帰って、楽しかったと言えることが、保護者も教職員も笑顔になれることにつながる。

育成する資質・能力について、学力は点数だけではない。その学力を支える力を以下の4つに絞り、授業や学校行事などに位置付けて力を育みたい。自分を律する力(決まりを守る、いじめをしない、規則正しい生活、善悪の判断)、粘り強くやりぬく力(学習、運動、目標をもつ、将来の夢)、他者を認め協働する力(学校行事、思いやり、協力、小中一貫)、課題を解決する力(学び合い、問題意識、生徒会活動、地域との連携)の4つに絞った。特に本校の強みは「他者を認め協働する力」と考える。伸ばしたいのは、課題を解決する力。特に生徒会活動、委員会活動を通して学校をよりよくするためにどうするか、子どもたちが主体的に活動する場を充実させたい。生徒に任せるところは任せ、見届ける指導を充実させたい。なお、グランドデザインには記載はしていないが、職員としての合い言葉(スローガン)を「目に見えることはみんな、目に見えないことは進んで」とした。

学校経営の方針は(1)～(6)とした。

特に(1)については、子どもたちには一人一人によさや違いがあることを前提に、人権教育を念

頭に置いて職務に当たっていくことを第一優先とした教育を行いたい。

- (4) 居心地のよい職場環境の醸成のために、みんなで過ごす職員室が心休まる場所、悩みを相談できる場所でありたいと思う。自分の考えが言えたり、話合ったりできること、そして決まったことはみんなで力を合わせて行うことが、同じ方向性をもって指導に当たることになり、子どもたちにもプラスになると考える。
- (5) 地域とともにある学校づくりについては、地域学校協働推進本部が立ち上がり、いよいよ本格始動となる年になる。橋本さんにも大変お世話になるが、ぜひ学校と地域とのつながりを強固にして、子どもたちの成長を支えていきたい。

本年度の努力点として(1) イ 聴くこと、話すことを重視した学習規律の確立については学校課題にもなっており、小中一貫教育のグランドデザインにも位置付けている。イを通してアを達成させたい意図はあるが、昨年度の反省を踏まえて重点はイとした。(2) ウ主体性を育む生徒会活動の展開を重点とした。生徒には学校をよくするために何ができるかを考えさせたい。いわゆる自治活動を活性化させたい。1ヶ月に1回委員会活動がある。子どもたちが主体となって考え活動する時間を与えるよう先生方にもお願いした。また、実現状況の確認として、学校評価の割合を目標値(目安)とした。学校経営カリキュラムマネジメントとしては、①~⑥をもとに評価・改善サイクルをまわしていきたい。

最後に、業務量管理、健康確保については①学校以外が担うべき業務②教師以外が積極的に参画すべき業務③教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務、を意識したい。目標としては「仕事と仕事以外の生活のバランスに満足しているか」の質問に肯定的回答の割合を75%とすることを掲げた。4月の職員構成については、学校だよりをご確認いただきたい。以上が学校経営方針についての説明になる。

4. 協議・意見交換

(1) 学校教育目標と方針についての承認

〈質問〉先生方の働き方改革について、どこまで進んでいるのか。(休日の部活動なども含め)

- ・中学校は、16時半から部活指導になる。R11年までにどの部活動も土・日の地域展開を目指すことが県の方針となっている。現在、男女のテニス部だけ地域展開の形になっているので、サッカー部、剣道部についても(外部指導者が入っている)進めている段階である。また、授業準備等(プリントの印刷など)で軽減できるところは、教員業務支援員などを活用している。しかし、勤務時間の減少にはなかなか厳しい状況である。
- ・小学校(国小)では、業務改善できるところについて、月に1回30分程度で話し合った。何より先生方の意識が変わった。(早く帰ろう。早く帰ることはいいことだ、という気持ちに変わった)時間外の業務時間が減ったこともあり、意識は大切だという実感がある。
- ・電話対応の時間も割り切った。4時半には留守電にした(保護者にも周知した)。早い時間での留守電について苦情などもない。(中学校は、下校後30分は留守電にしていない。)
- ・玄関の施錠、掲示物の削減、データの整理など、ちょっとしたことの積み重ねが効果的だと感じている。
- ・保護者が集まるときに(年度始めや授業参観の時など)、校長より部活動の方針など、はっきり示すことが大切だと感じている。

※学校経営の方針については、承認をもらう

(2) 本校の現状や課題など（意見交換）

- ・自転車の乗り方など、継続して指導していく。今年度は、地域コーディネーターの橋本さんを中心として、学校と地域の方とのつながりを重点的に考えていきたい。
- ・スクール応援隊について、学校を核とした地域づくりが最終的な目標になる。学校運営協議会で意見を投げてください、こういう方向性で解決に向けてすすめていくことを合議の上で決めていく流れになるとよい。また、学校の方からも「こういうことが困っているため、地域の力が必要である。」と言われれば、みんなで解決の道を探っていくこともできる。たくさんボランティアが入ってもらうことで、地域の中で埋もれている人材も活躍していただき、学校も元気になってもらうというねらいがある。そのためにも、本部に登録できる人材を増やしていきたい。
- ・部活動の地域展開が課題である。市の協力もいただきながら中学校側で人材を見つけていけないといけない。陸上部は、今年部員がかなり多い。陸上専門の先生もなかなかいない。土・日だけでも移行していきたい。
- ・最初から土・日をやるのは難しい（責任を負う）ので、まずは先生と一緒にサポートする形がよい。
- ・地域にいても、その状況（募集）が見えない。どんな風に発信するかが大切だと感じる。自分から手を挙げるのも難しいと思うので、こういう人材を求めています、とはっきりと（必要性があるものを簡潔に）発信してもらえると、手を挙げやすいのではないかと。（回覧板等の形でも）
- ・スクール応援隊の認知度もまだないので、その組織のことも含め、5月の地域回覧で発信していく予定である。まだ試行錯誤の段階なので相談しながらやってみて、修正していく形でいけるとよい。

(3) その他

5. その他

- ・今後の予定について
- ・申請書の変更について